

「道徳指導法」授業実践

人物を題材にした道徳授業の指導案作り（その1）

Guidance draft making of moral teaching with the person(part1)

柴田育郎 (Ikuro SHIBATA)

はじめに

小・中学校に教育実習に行った学生が研究授業として課せられるのは、得意教科の授業に加えて配属された学級での道徳授業である場合が多い。道徳の授業は正規の教員でも指導が難しいといわれているのに、なぜ未熟な実習生に任せるのか。それは消極的な意味としては、単発的な授業であり指導効果がなくてもさして影響が残らないからであるが、積極的な意味としては、教科とは異なる授業構想力や指導技術を磨かせるとともに、教員としての資質を見極めるという側面をもつからである。

このことは「道徳の授業」の教育現場での実情や問題点をも示している。道徳教育の重要性は新学習指導要領でもことさら強調され、学校も教員も承知している。しかし、その「要（かなめ）」とされている道徳の授業への意欲は一向に盛り上がる気配はない。それは道徳授業が技術的に難しいという半面、教科のように明確な成果・評価が問われないという、ある意味での気楽さから、熱心に取り組む教員の少ない授業になっているからではないか。これは長年現場教員を経験してきた私の偽らざる感懐でもある。

「道徳指導法」の授業を行うにあたり、学校現場でのこうした状況を率直に学生に伝えたいと、あらためて道徳教育の大切さを理解させるとともに、道徳の授業に対して「面白い、やってみたい」という意欲をもたせたいと考えた。また、大きなネックになっている“授業の難しさ”を解決するためのひとつの方策として、「人物を題材にした道徳授業」を学生とともに開発していくことで講義自体の意義を深めたいと願った。

1 「修身」と「道徳」

人物を題材にすることは新しいことではない。この発想は明治から終戦までの尋常小学校、国民学校で行われていた「修身」にある。「修身」は明治5年の学制発布で要請された教科であり、昭和20年12月31日に占領軍から出された「三教科停止指令」の時点まで学校教育の中核に据えられていた。明治24年から修身教科書を用いるようになり、明治36年からは国定教科書となった。明治後半からの特徴は徳目主義、人物主義といわれ、人物の逸話、言行などの「例話」を用いて、徳目を系統的、具体的に教える方法が採用された。

しかし昭和初期からは戦時体制を反映して、戦意高揚を促す政治的イデオロギーが強く反映されたものとなり、児童・生徒の「人格」の育成よりも極端な思想教育に近いものになっていった。敗戦により停止された「修身」はその教科書（第四期改訂版－昭和8年）に見られる軍国主義的、国家神道主義な内容を問題視されたわけだが、占領軍は必ずしも「修身」の授業そのものを否定したわけではなく、内容を改訂して再開することもできたといわれている。

結局、新たな教科「社会科」の導入があったものの、戦後のほぼ十年は、道徳教育を担う明確な教科が教育課程上から消滅してしまう。その後「修身復活論」等もあり、やがて昭和 33 年の学校教育法施行規則改正、学習指導要領改訂で「道徳の時間」が位置づけられて現在に至っている。

終戦までの「修身」と現在の「道徳の授業」については、私なりに思うところがあり、平成 21 年に「教育新聞」（教育新聞社）の依頼で、以下のような文章を書いた。

提言 「道徳の授業に修身を」 豊田市立下山中学校長 柴田育郎

「木口小平ハ シンデモ クチカラ ラップヲ ハナシマセンデシタ」。この言葉と絵がいつまでも頭に残っている。教員になった頃、社会科授業の資料にと物持ちの良い隣のおじさんの家に行くと、見せてくれたのが尋常小学校の『修身』教科書であった。おじさんは誦んじているかのように声を上げて、ページを繰って見せてくれた。ほかにも何かいわくありそうな絵と短い話がたくさん載っており、戦前の小学校での授業風景が浮かんでくるようだった。

道徳の授業は昭和 33 年の学習指導要領に登場してから始まった。当時関わっていた先生から導入の経緯をお聞きしたことがある。道徳は日常の生活の中で指導すべきという意見と、授業として位置付けるべきという意見が対立し、文部省内でも活発な議論があったという。結局、特設授業という形で現在まで引き継がれている。

私自身も道徳の授業を受けてきたが、印象に残っているのは『郷土に輝く人々』という副読本を使って教えてもらった「明治用水と都築弥厚」くらいで、あとの記憶は皆無である。教えていただいた先生方には申し訳ないが、道徳授業が私の道徳性に影響を与えてくれたという意識はない。

振り返って私の道徳授業もまったくお粗末で、小学校でも中学校でも手ごたえのある授業の経験はない。研究授業もやったが、一度も褒められたことはない。

不勉強を棚に上げていうなら、そもそも道徳の授業は難しすぎる。第一、子どもに己の心中を表現させ、話し合わせ、揺さぶり、感動させるなどということは相当の力量と題材、あるいはショッキングな出来事がなければ至難である。

そこへいくと、戦前の「修身」の明快さはどうであろう。「日本や世界（外国人も載っている）にはこんな立派な生き方をした人がいる。すばらしいですね。」実在した人物や業績だから、「もしも」や「あなただったら」という無理な場面設定は必要ない。

戦前・戦中の皇国史観や愛国精神注入といった側面からすべて否定されてしまった「修身」であるが、すぐれた人の生き方を教えるのは決して間違ったことではないと考える。

戦争からもう 64 年、道徳導入から 50 年。そろそろ変えてはどうだろうか。

〈教育新聞愛知県版 2009 年 10 月 29 日〉

この記事はある教員組合の目に触れて抗議を受けた。軍国主義を肯定し、教育現場で日々熱心に道徳授業を行っている教員の努力をむなしくするものだ、というものである。しかし、まったく筋違いであり、大半の教員や教育関係者は本意を理解してくださった。

2 授業の構想

全 15 回のシラバスは右のとおりである。
この授業は 2 コマあり、教育学科生 78 名と主として交流文化学科生 65 名である。いずれも中学校免許取得単位を目的としており、約 8 割が 1 年生である。

最終的な目標は人物を題材にした授業の指導案を作成して模擬授業を行うことだが、指導案の作成すら経験のない学生も多いため、まずは一般的な道德教育についての知識から入ることにした。

この授業を行うにあたって私が興味をもったのは、まだ中学校を卒業してさほど間もない学生たちが小・中学校で受けた道德の授業についてどのような印象をもっているかである。教員の立場での印象や経験談は前述の「提言」どおりであるが、はたして子どもたちはどのようなようであったのか。これは今回のような機会が与えられなければ知ることのできない

もので、貴重な資料となる。まして県内・県外の各地区から幅広く来ている学生である。道德教育の現状を再認識できるのではないか。

【道德指導法シラバス】

回	授 業 内 容
1	道德教育の現状
2	新学習指導要領の改訂事項
3	道德教育の歴史（1）世界
4	道德教育の歴史（2）日本
5	道德性の発達
6	子どもの道德性に伴う大人の役割
7	道德教育の目標
8	道德教育の内容
9	道德教育の計画
10	「道德の時間」の特性
11	「道德の時間」の指導方法と評価
12	道德指導案の実際（1）小学校
13	道德指導案の実際（2）中学校
14	道德授業の指導案作り
15	道德事業の実践演習（模擬授業）

3 道德についての意識

講義第 1 回目の受講カードに次のような項目を載せ、学生に回答させた。

- (1) 小・中学校時代に特に印象に残っている道德の授業があったら、思い出せる範囲で、どのような内容だったか書いてください。
- (2) 小・中学校時代に受けた道德の授業が、今日のあなたの道德性に影響を与えているとおもいますか。
- (3) 下記の道德的価値のうち、子どもたちに特に指導すべきだと思うものを 5 つ選んで○をつけてください。（友情 生命尊重 責任感 など 42 項目を示す）
- (4) 上記の道德的価値の中で、あなた自身がよく身に付いていると思うものは何ですか。3 つ程度書いてください。
- (5) それはおもに、どこで養われたと感じますか。（家庭 地域 学校生活 特別の体験）
- (6) 逆に最も身に付いていないと自覚する価値は何ですか。
- (7) あなたが道德の授業で、ぜひ取り上げたいと思う人物は誰ですか。（過去・現在・国籍・ジャンルは問いません）

キ 人物を題材にした授業

- ・ イチロー選手の小さい頃からを振り返った授業があった。挫折しても努力を惜しまなければできなかったことができるようになることを学んだ。

ク 教師の指導技術が光る授業

- ・ 小5・6の先生が道徳を教えるのがとてもうまい先生で、みんなよく発言して、意見を言い合うような積極的な授業だった。先生はみんなの意見を尊重してくれて楽しかった。
- ・ 特別支援学級の先生が私のクラスに来て授業をしてくれた。普段あまり真剣に受けていない道徳の授業だが、その授業は引き込まれるようにして受けていた。

ケ 教師の話が効果的だった授業

- ・ 先生が友情について語った。心に刺さった。
- ・ 担任の先生が好きな本(夏目漱石)をクラス全員に読んでくれた。心を打たれた。
- ・ 「ファイティング・ニモ」の映画を視た。主人公のニモは片方の鰭が小さい熱帯魚で泳ぐのが得意ではないが数々の冒険をするストーリーだ。視た後に担任の先生が「私の子供はニモのように片手に障害をもっている」という話をされ、障害について考えさせられる授業だった。

コ 人権問題中心の授業

- ・ 毎時間と言ってもよいほど差別に関することだった。部落差別、在日問題、全国水平社宣誓文など。(桑名・四日市・津の出身者の回答に多い)

サ 印象に残っていない授業

- ・ 教育実習生が来たときにしか行われなかったのも特に覚えていない。ほかの時は個人追求の時間でした。
- ・ たいていは自習の時間になっていた。中1の頃は交流を深めるという感じで遊び中心でした。おかげでクラス全員仲良くなれたけど…。

道徳授業には教科書がなく、題材や方法は担任(担当者)任せである。学生140名の小・中学校9年間の思い出を集めてみると、さすがに様々な授業があったことが分かる。全学生の答えた「印象に残っている授業」を内容もしくは方法別に数値でまとめてみる。

印象に残っている授業 (内容・方法別人数)			
読み物教材	44人	体験活動	7
担任独自の手法	25	人権問題	7
TV・ビデオ・講演	20	その他(行事的な内容と混同)	4
クラスの問題	8	別の授業に振り替え	6
心のノート	7	まったく記憶がない	12

(2) 道徳の授業が与えた影響

「小・中学校時代の道徳の授業が今日の自分の道徳性に影響を与えているか」についての回答は次のようであった。

そう思う	そう思わない	よく分からない
51人	10人	70人
39%	8%	53%

たとえ1時間でも大きな感銘を受けたり、自己を反省するきっかけになったりしたような授業に出会った者は「そう思う」と答えたと思われるが、約6割程度は印象が薄く、少なくとも自分の道徳性との関連は意識されていない。

(3) 道徳的価値項目について

学習指導要領に示されている内容項目等をもとにした様々な道徳的価値について、以下のカテゴリーで回答させた結果が下記の表のようである。

①子どもたちに特に指導すべきだと思う価値（5つ選択）			②自分自身によく身に付いている価値（3つ選択）			③自分に身に付いていないと自覚する価値（1つ選択）		
順	価値項目	人	順	価値項目	人	順	価値項目	人
1	感謝	74	1	感謝	36	1	整理整頓	26
2	善悪判断	73	2	善悪判断	36	2	根気	19
3	生命尊重	49	3	友情	35	3	創意工夫	15
4	友情	44	4	健康安全	29	4	伝統文化継承	13
5	協力	40	5	責任感	22	5	愛国心	12
5	責任感	40	6	協力	20	6	勇気	10
7	信頼	29	7	家族愛	19	7	節度節制	7
8	正直	26	8	自由	17	8	国際理解	7
9	自主自立	24	9	正直	16	9	自主自立	7
9	家族愛	24	10	生命尊重	12	10	謙虚	5

集計時に反省したのは「善悪判断」の項目を入れたことである。これは指導要領の内容項目には明示されておらず、意味の包括範囲が広くてすべての道徳的判断の基準を表してしまう。回答数が多いのは当然である。それを考慮しても①②の結果はよく似ている。①は「自分の求める望ましい人間像」の反映であると考えてよく、実際に自分自身もそういう生き方をしているという事であろうか。ともに「感謝」がトップであるのは予想していなかった。豊かな社会で比較的恵まれた環境に育ってきたことに感謝の気持ちが強く、また子どもたちの将来にもそれを望んでいると考えたい。平和な時代の表れか。

「身に付いていない」とした価値のうち注目すべきは「伝統文化継承」「愛国心」「国際

理解」の項目で、平成18年の教育基本法の改正で新たに示された内容そのものである。現在の日本人に欠けている、あるいは薄れかけているものとして強調された愛国心、郷土愛、それに根づく国際理解の心を育むことがこれからの教育には重要課題であることをあらためて意識させられる結果であった。

(4) 道徳性を育んだところ

「あなたの道徳性はどこで養われたか」の問いに対する結果は次のようである。

家庭	地域	学校生活	特別の体験	その他
90人	15人	117人	12人	8人

(複数回答可)

「学校生活」と答えたものが「家庭」以上に多かった。この結果については学校現場で勤めていた者にとっては非常に喜ばしく労をねぎらわれた感があるが、それとともに学校教育の重要性、責任感、使命感を再認識せざるをえない。

(5) 道徳の授業で取り上げたい人物

授業の最終目標である「人物を題材にした道徳指導案作成」を前提にした問いで、ここで答えた人物を題材にしてもらいたいと考えた。しかしあえて指導案作成に言及せず、幅広い範囲から自由に書かせた。実際にどの人物を取り上げたかは後述するが、この時点でのベスト10とユニークな回答を以下に示す。

順位	取り上げたい人物	人	順位	取り上げたい人物	人
1	マザー・テレサ	29	6	オバマ大統領	5
2	イチロー	15	7	ガンジー	5
3	キング牧師	14	8	ナイチンゲール	4
4	乙武洋匡	8	9	マイケル・ジャクソン	4
5	杉原千畝	6	10	ナイチンゲール	4

〈その他〉

(故人) アンネ・フランクリン ヘレン・ケラー リンカーン エジソン 坂本龍馬
金子みすゞ ナポレオン 福沢諭吉 勝海舟 大塩平八郎 渋沢栄一 野口英世
松下幸之助 渡辺崋山 ゲバラ ジョン・レノン モーゼ 平塚雷鳥
ルイ16世 ベーブルース シュバイツァー

(現存) 水谷修 村上春樹 孫正義 高橋尚子 石川遼 ビートたけし 奥田民生
坂本達 中田英寿 吉田沙保里 野村克也 浅田真央 安藤みき 鈴木明子
小野伸二 金本知憲 長谷川穂積 中村俊郎 レイチェル・カーソン はるな愛
オグマンディーノ レーナ・マリアアルゴア (おしん)

私の知らない人物もあるが、こうした人物を題材として教師が思いを込めて授業をすれば、既成の資料によるもの以上に子どもたちの心に届く授業となるのではないか。

4 道徳教育についての理解を深める ー授業前半ー

ここからは主な授業内容とそれに対する学生の反応を受講カードに書かれた感想や意見をもとに述べていく。

講義	おもな授業内容
1～3	道徳とは何か 道徳教育の現状と課題 新学習指導要領の改訂事項

(1) 道徳教育の大切さ

- ・ 勉強ができ誰より物事を知っていても、豊かな心をもっていなければ立派な大人になることはできない。勉強を教える前にまず道徳を身に付けさせるべきだと思った。
- ・ 道徳は私たちが生活する上で教科科目より重要であると思います。道徳の価値を上げることが今後の日本の教育の課題だと思う。
- ・ 道徳の大切さは今になってよく分かる。学校生活そのものが道徳の授業だった。

(2) 道徳の教科化について

- ・ 今日一番驚いたのは道徳が教科ではないということです。
- ・ 私は道徳の教科化に賛成します。なぜしなかったのか気にかかります。
- ・ 道徳という授業はその人の内面に关わることだから、教科化して成績をつけるのは難しいだろうと思った。

(3) 道徳授業の課題

- ・ 道徳のねらいが生徒たちにはあまり伝わっていないなど感じる。あまりやったことがないのが原因だろう。
- ・ 道徳の教科書(副読本)をもっと興味をもたせる内容にするべきだと思う。

(4) 「愛国心」について

- ・ 安倍内閣はすぐに終わってしまいましたが教育面にきちんと向いていたことは感謝すべきだと思いました。愛国心や郷土愛を重点とした教えはいいと思う。
- ・ 愛国心について勉強した記憶はまったくない。これを機会に考えてみようと思う。
- ・ 私が愛国心をあまり重視しようと思わないのは、どうしても戦時中の日本を美化していたイメージがあるからです。

(5) 新学習指導要領について

- ・ 新指導要領において道徳が最も重要な役割を果たしていると聞いて驚きました。
- ・ 道徳教育推進教師の話聞いて、本当に必要なのかと疑問をもちました。

講義	おもな授業内容
3～4	道徳教育の歴史(西洋世界の道徳観 日本の道徳思想)

(1) 西洋世界の道徳観

- ・ 世界の道徳観はキリスト教の誕生で大きく変わり、今日まで影響している。
- ・ 外国のように宗教が確立していると道徳の指導もし易いだろうと思う。

- ・ 「知ることと為すことの一致」は今でも本当に難しいことで、人間の生きることそのものを表すと思うと、深いなと思いました。
- ・ 「人間は他者との関わりの中で生きている」という言葉は道徳を学ぶ上で、最も大切な言葉だと思う。
- ・ 紀元前の昔から人間はいろいろなことを考え、そのつど成長し、それが今の道徳につながっていると思うと何だか感動しました。
- ・ 道徳教育には正解が無いのだと感じた。これから先も道徳性を磨くのはどうすればよいのかを日々考え、最善を尽くすしかないのだと思う。
- ・ 意識はなくとも人の心に「道徳心」があるから秩序が保たれるのだと思いました。
- ・ 「自由は立法無くしては有り得ない」という部分にとっても共感しました。私たちが自由をはき違えてしまっただけで生活がめちゃくちゃになってしまいます。

(2) 日本の道徳思想

- ・ 高校の頃はこんな覚えて何になるんだと考えていたので、現在の道徳に繋がっていることに驚きました。
- ・ 昔から聖徳太子の「以和為貴」が好きでした。自由・平等という思想も無かった時代に自分中心の考えでなく、「人の和を大切に」という考えがあった事は印象深いです。
- ・ 世の中の人々が幸せに暮らしていくため、というのが、どの思想家にもあると思う。
- ・ 様々な人の様々な考えがあって今の道徳観がある。私たちの道徳観もまた次世代に受け継がれていくと思うと、しっかりした道徳観が求められていると思いました。
- ・ 日本人は何でも容易に認める国だと見られがちですが、自由に選び認めることのできる寛大さだととらえることもできます。
- ・ 日本は他の考え方や文化を受け入れ自分のものに変えていくが、つつしみや儉約、勤労といったところに日本人らしさが表れている。
- ・ 日本の道徳思想は“慎ましい”、西洋は“自由だけど厳しい”という印象をもった。
- ・ 西洋、日本に共通して、それぞれの歴史で培ってきた思想・宗教の良い部分を広く取り出して、現代に生きる子供たちに教えているように感じた。

講義	おもな授業内容
5～6	道徳性の発達理論 子どもの道徳性に伴う大人の役割

(1) さまざまな道徳性の発達理論について

- ・ ピアジェが「認知発達理論」で、遊びを通して自己中心性から解脱すると言っていたが、過去の自分を振り返ってみてもそうだったかなと思う。
- ・ 今日心理学の授業みたいで私には難しかった。しかし、自分もこのような過程を経て道徳性を身に付けたことが分かった。
- ・ フロイトの考えは極端だが、そこからまた新しい理論が生まれたことは評価すべき。

- ・ 外的道徳性はその時代によって違う事に初めて気づかされた。自分が年寄りになる頃には今の道徳観とは違うかもしれないと思うと、今の自分の何が正しいのだろう。
- ・ 現在地元の小学校で週1回学校サポーターをしています。以前は保育園でボランティアをしていました。この経験を通し、子どもたちの無道徳→他律→自律の発達過程を回想して理解することができました。

(2) 大人の役割について

- ・ 今日の講義は共感と納得の連続でした。思えば父の好きな音楽、父の好きな映画は私の好きな音楽と映画でもある。影響力の偉大さを感じました。
- ・ この歳になって「私なんか母に似てる」「父に似てるかも」と思う事が時々ある。教師になった時、子どもたちのよい手本になるようにしたい。
- ・ 子どもの頃は母親の存在が自分のすべてでした。中学生のころは逆に反抗することで自分を作っていたと思います。今考えてみるとあの気持ちは何だったのだろう。
- ・ 来年20歳になる自分に、今日の授業は大人の責任を考える機会になりました。
- ・ 幼いころ、信号は守らなければいけないと信じて無視する人を軽蔑していたのに、ある日急いでいて母親に手をひかれて信号無視した時、とてもショックだった。正しいことを教える母親になりたい。
- ・ 今日の授業は自分が教師になった時だけでなく、子供をもつようになったときにも役立つ内容でした。ドロシーさんの詩を読んで、両親への感謝の念がわきました。

(3) 遊びについて

- ・ 遊びのひとつひとつでできる小さな社会はとても大切なんですね。
- ・ 「子供は遊ぶのが仕事」という言葉の意味がやっとわかりました。
- ・ 懐かしい遊びがたくさん出てきて、もう一度遊びたくなりました。
- ・ 遊びより勉強ばかり重視している世の中ってどうなるのだろうと思う。
- ・ 遊びについて考える講義はとても楽しかったです。「仲間に入れて」というのはとても勇気がいる事だった覚えがあります。
- ・ 将来子供がこれらの遊びを知らずに生育してしまうのではないかと不安です。
- ・ 私は小1の時から3つほど習い事をしていました。放課後みんなと遊んでいても途中で帰らなければいけない時もありました。友達にも習い事で遊びが制限されている子は少なくなかったです。

5 道徳授業の意義と方法を知る —授業中盤—

講義	おもな授業内容
7～8	道徳教育の目標 道徳教育の内容

(1) 道徳教育の重要性について

- ・ 今回の授業で週1回道徳授業をもつ小中学校教師の重要な役割が分かりました。これをおろそかにすることで生徒の生きる力を妨げることになると思うと怖いです。
- ・ 道徳は授業外でも学んでいる。むしろ授業でやっている道徳は生徒の心に届いているのかなど不安になった。
- ・ 道徳の重要性をあらためて感じます。教師を目指す上で、真剣に向き合わなければならぬと思いました。
- ・ 「人格の完成」のような抽象的なものを目指して教えるのは大変だと思う。目に見えるものではないし、死ぬまで道徳教育が役立ったか分からない。奥が深いです。
- ・ 私にとっても道徳の時間は本当に大切な時間だったと体験をもっていえます。
- ・ 道徳は教育の要だと思います。ゆっくり自分と向き合う時間をとることで、社会に出るまでに自立した人格を養う事が出来ます。
- ・ 道徳の時間はいちばん教師らしい仕事ができる時間じゃないかなと思う。

(2) 道徳的価値(内容項目)について

- ・ 週に1時間でこれだけ多くのことを教えるのは厳しいように思います。
- ・ 24項目はそれぞれがバラバラではないので、関連づけて指導しようと思った。
- ・ まずは私自身がこれらのことをしっかり体得することが必要だと思いました。
- ・ 原則として、すべての項目を扱うとされていますが、浅く触れるだけで終わるよりもひとつひとつをきちんとやった方がいいのではないかと思います。
- ・ これだけ多くの内容をどれだけ深く教え伝えられるかが教師の腕の見せ所ですね。
- ・ 項目別に分けても分けなくても、結局はすべてが混ざり合っひとりひとりの道徳観や人間観ができていく。偏りなく教える事が成長や将来に繋がると思います。
- ・ 大学生である私でも身に付いているかどうかあやしいものがたくさんありました。
- ・ 「4つの視点」のうち最も多いのが集団・社会と他人との関わりです。日本人は集団や他人との和を重んじる文化があり、その点が強く影響していると思います。
- ・ 全部を兼ね備えている人なんて実際いないだろうと思ってしまう。

講義	おもな授業内容
9~11	道徳教育の計画 道徳の時間の特性 道徳の時間の指導方法と評価

(1) 道徳教育の計画について

- ・ 計画を明確に立ててある学校とそうでない学校とでは授業内容の濃さにひらきが出るだろうなと感じました。もう一度中学校に戻って授業を受けてみたい。
- ・ もっと道徳に力入れられるだけの時間を先生に与える努力をしなければならない。
- ・ 教師が生徒の現状に合わせて計画ができるところが道徳のいちばんの魅力だと思う。
- ・ 道徳は、流動的に行う事で効果を発揮するという珍しい科目だと思いました。
- ・ 担任の先生は自分のクラスの子のことを大切に思っていることを実感しました。

(2) 全面主義と特設主義について

- ・ 私の考えとしては、小学校においては全面主義、中学校においては特設主義の立場をとります。小学校までで身をもって経験して学んだ道徳というものを中学校で体系的に学び直すとよいと思います。
- ・ どのような形にしろ、道徳の時間を有意義にするのは先生方の力と生徒たちのリアクションや受け止め方にあると考えます。
- ・ 特設主義の方がよいと思います。自分自身のこととしてとらえにくいかもしれませんが、考えたり想像したりして自分なりの考えを出すことも大切だと思います。適切な機会が来た時に、その授業を思い出してさらに考える事ができると思います。
- ・ 自分が先生になった時、いちばん難しい授業は道徳なのではないかと思った。

(3) 指導方法と評価

- ・ 使う資料によって良い授業にも良くない授業にもなってしまうことがあると感じた。
- ・ 道徳の授業がうまくできる先生こそ良い先生なんじゃないかなあとと思います。
- ・ 先生の話聴く道徳が好きだった。親とは違う大人の話ほど刺激を受ける事はありません。今の私の体験もいつか授業の参考になると思うと恥ずかしい事はできません。
- ・ 教師自身が日常でいかに周りにアンテナを張って過ごすかが道徳の質を良いものにすると思います。
- ・ 道徳は評価できないものだから、心に残る事をしなければいけないなと思いました。
- ・ 「心のノート」は自分のことを整理して書いているので、自分では分からなかった細かいところまで発見できたような気持でした。
- ・ あらためて「明るい人生」や「心のノート」を見て、私自身この中から学び、今でも身に付いているものが多くあると感じました。
- ・ 通知表に道徳の評価を言葉で書く欄があってもいいと思います。
- ・ 道徳に教科書はないが、逆に考えたらどんなものでも題材になりえるのだと思った。
- ・ 話し合いの場を設ける事はとてもよいことだと思います。皆の意見を知ることにより自分の考えが変わり、一段と人のことを考えられる人になるからです。

6 ここまでのまとめ

小・中学校で道徳授業を受けてきた学生たちにその印象を尋ねてみると、おおむね記憶に乏しかった。現場教員の意識や取り組みの現状から予想されたことではあるが、一概に教員を責められない。あたふたと理科の実験の後始末をした後、あるいはプールでの水泳指導でくたくたになった後等で道徳の授業をしているのである。毎週よほどの思い入れや準備をして臨まなければ子供達の心に響くような授業はできず、「道徳の授業は学校教育の要」といわれても、なかなか理想通りにはいかない。

しかし、ここまでの実践記録にあるように、学生たちはこの授業が進むにつれて学校教育における道徳授業の大切さを感じてきている。後半（その2）では、いよいよ指導案の作成、それもオリジナルな「人物を題材にした道徳授業」を目指していく。